

「ラムサール条約登録 20 周年を迎えた谷津干潟の挑戦」

○芝原達也・島田義夫・小林晴康・宮西盛一郎・小山文子・星野七奈・永井祐紀・井坂紗弓・椎名明日香
(谷津干潟自然観察センター)

谷津干潟は、東京湾最奥部にある、埋め立てによって市街地に囲まれる面積約 40 ヘクタールの干潟である。1993 年 6 月に釧路でのラムサール条約締約国会議で登録湿地となり、2013 年に 20 周年を迎えた。

谷津干潟では、2000 年頃から緑藻のアオサの繁茂と腐敗が顕著となり、腐敗臭によって周辺住民の生活環境が悪化し、シギやチドリの餌場環境も悪化していることから、2010 年から環境省による保全事業が実施されている。

本発表では、周囲の埋め立てから 40 年が経過した谷津干潟の自然環境の変化と保全上の課題に対し、ラムサール条約における CEPA (Communication, Education, Participation, Awareness) 活動として、谷津干潟での取り組みとその意義を紹介したい。

谷津干潟に隣接する谷津干潟自然観察センターは、習志野市の施設で、現在は指定管理制度のもとで(社)アーバンネイチャーマネジメントサービスが運営している。同団体は、習志野市が主催するラムサール条約登録記念イベント「谷津干潟の日」を運営する谷津干潟の日実行委員会の事務局も担っている。

観察センターでは、環境教育を目的とする干潟の利用を 2011 年から、観察センター前の干潟を利用している。子どもの人材育成プログラム「谷津干潟ジュニアレンジャー」の成果は、前回の本学会で発表しているが、干潟の活用があってこそ成功した谷津干潟の CEPA 活動の代表例である。教育のために干潟が活用されることは、干潟の社会的価値を高める意義がある。

また、谷津干潟の日事業は、20 周年記念として、開催日数を増やし、年間を通じた開催を現在、進行している。これまでの成果としては、以下のものが挙げられる。

- イベントの実施とその広報、多数の参加者の獲得、多くの出演者や出展者の協力を通じて、谷津干潟の存在と条約登録地であることを広くアピールした。
- 地域住民が構成する実行委員に新規メンバーが参加し、新規イベントの企画や準備、実施に参加した。
- 高校生や大学生が実行委員に参加し、鍵となるイベント出演者になったことから、世代間交流や社会参画の場を提供できた。

以上により、地域住民による協働の輪が形成されつつあると言える。谷津干潟は地域のコミュニティ強化に貢献している。今後は、谷津干潟の保全ための参加の場をつくり、谷津干潟の将来像を育みながら共有し、さらに発展していきたい。



写真1 谷津干潟ジュニアレンジャーが環境教育賞・優秀賞を受賞(2013年8月)

写真2 谷津干潟の日 ラムサール条約20周年記念シンポジウム「未来への扉を開こう」(2013年6月)

写真3 谷津干潟の日「8.24 愛で包もう谷津干潟」(2013年8月)